

青雲



【目指す学校像】

学びと感動と温かさのある学校

- 【教育目標】
- 1 自主・自学の向上心を持ち、真剣に学習する生徒
 - 2 礼節の中に思いやりを持ち、互いに認め合う生徒
 - 3 心身を鍛え合い、たくましく生きる生徒

【校訓】 『親和一誠』 『自発協力』

今年の成長を振り返って

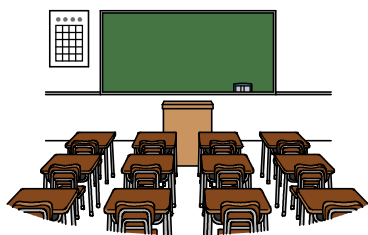
修了式

1年生は200日、2年生は203日の授業を終え、本日修了式を迎えました。校長から次のような式辞がありました。

皆さん修了おめでとうございます。修了式というのは、中学校の1学年、2学年で学ぶべきことをしっかり学び終えたという証の式です。学ぶべきことというのは各教科、学級活動や道徳、総合的な学習の時間などに勉強したこと、部活動や生徒会行事などで体験したことをとおして、考え方や伝え方、表現の仕方が学年にふさわしいやり方を身に付けたということを意味します。

2月に小学校6年生を招いて体験学習をした際に、生徒会執行部の3人が生徒会活動のことを原稿を見ないで説明しました。これを聞いた小学生が「中学生ってすごいな、自分が中学校2年生になったら相手の目を見て話すなんてできるかな。」と言っていました。君たちが教科の勉強だけではなく態度や言葉遣い、服装など、その場に応じた立ち居振る舞いができるようになったことも学年の教育課程をしっかりと修めたことの証明です。先日の卒業式もそうでした。態度も歌も、準備も大変立派で、来賓の方々からも褒めていただきました。

29年度を振り返ると、「二中を楽しい学校にしていこう。」「良い集団の中だと一人一人がのびのびと力を伸ばしていける。その中で、一人一人が輝くともっと良い集団になります。」と話してきました。これに応えた君たちは素直で、伸びやかで、優しい気持ちをもって何でも一生懸命にやる『カッコいい中学生』になっています。「凡事徹底」、当たり前のことを長く続けること、「自分を成長させるための小さな勇氣」を出すことを心掛けてきたためだと思います。



4月10日、100人の1年生が入学します。2年生は先輩として、3年生は最上級生、二中の顔としてもっともっと自分の良いところを発揮しましょう。そのために、春休み中に新しい学年の目標を立てて、その目標を実現させるために具体的に何を続けるのかをよく考えてきてください。勉強もしっかりとやりましょう。

災害に備える決意

東日本大震災追悼行事

3月8日(木)卒業式の前日。東日本大震災で失われた命に思いを寄せ、防災・減災への気持ちを新たに追悼行事を行いました。日本の地震観測史上最大規模のマグニチュード9.0の巨大地震。死者15,894名、行方不明者2,546名もの被害を出した大災害でした。この災害を風化させることなく語り続けることが私たちの使命といえます。今年石川美由紀防災担当教諭の発案で、生徒の心に響かせるような追悼行事となりました。

会場の体育館内は照明が落とされ、スクリーンに気仙沼市立階上中学校の卒業式の映像が流れはじめました。一瞬のざわめきの後佐々木養護教諭が同校の卒業生代表生徒の言葉を朗読。映像と重なり合って生徒達は一人一人が当時を偲び深く考えました。続いて繁田教諭が、当時高校生で石巻の避難所のボランティアをしていた方の手記を朗読しました。生徒の中にはハンカチで目を拭う姿も見られます。朗読が終わり会場に再び照明が灯ると、ギャラリーにスタン



